

## 編集後記

戦史部にとり永年の念願でありました『防衛研究所戦史部年報』の創刊から早一年がたち、ここに第二号をお届けいたします。

創刊号に対しては数多の好意的な反響があったこともあり、第二号より予算が認められ印刷も部外で行なうこととなりました。あらためて、関係者の御支援に伏して御礼申し上げます。

そのような意味で、刊行することが最大の目的であった創刊号と異なり、内容をより充実させ『年報』を定着させていくべき第二号の役割は大きいといわざるを得ません。

本号は巻頭に、入江昭教授及び作家の保阪正康氏による御講演の記録を収録いたしました。前者は平成七年六月戦史部の研究会における講演ですが、今日にも通じる貴重な指摘が多く示唆に富んでいるため、入江教授の御了解を得て掲載したものです。後者は、本年度の戦史研究発表会における特別講演です。

「論文」としては戦史部員の研究成果を三篇、「国際特別研究会記録」として、ブルース・レイノルズ、ロナルド・スペクター両教授、及びイスラエルのベニー・ミハルソン前戦史部長の研究会の記録を掲載いたしました。さらに、「戦史部の歩み」は、「戦史研究発表会の歴史」を特集し、「史料紹介」として、「公文備考」、及び八甲田山の遭難として知られる「歩兵第五聯隊雪中行軍遭難事件」関係史料の二史料を紹介いたしました。その他、研究会等の実施、戦史資料の閲覧、参考調査などの状況について、「活動報告」として掲載いたしました。参考調査、史資

料の閲覧といった業務は、大変地味ではありますが、質・量ともに戦史部の主要かつ地道な活動の一つとして御理解いただければ幸いです。

『年報』の性格上特集形式には馴染みませんが、本号で取り上げました入江・保阪・スペクター三氏の講演はいずれも、第二次世界大戦を中心とする戦争の認識をめぐる問題を対象としております。この問題は現在の日本にとりまして非常にホットなテーマですが、三氏のそれぞれ異なった視点から多くの学べき点があると思います。

又、レイノルズ教授は、戦時期日泰関係の fallout とされていた側面を明らかにし、ミハルソン前戦史部長は、安全保障の面で日本とは全く異なった環境にあるイスラエルの実態を示しており、いずれも読み応えがある記録となっております。

最後に、本号に寄稿していただいた方々をはじめとする関係各位の御協力に厚く御礼申し上げます。皆様から御意見・御感想を賜り、今後『年報』の内容がより一層充実したものとなるよう期する次第であります。

(庄司潤一郎)

### 防衛研究所戦史部年報 第二号

平成十一年三月三十一日発行

編集発行 防衛研究所戦史部

〒153-8648 東京都目黒区中目黒二二二

電話 〇三―五七二―七〇〇五(代表)

印刷 有限会社 黎明社